

第33回全国バス学習研究大会

新しい教育の目指す方向とバス学習

—— 新学習指導要領の主体的対応 ——



期 日	平成13年11月10日 (土)
会 場	名古屋工業高等学校
主 催	全国バス学習研究会
後 援	愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会

ご あ い さ つ

第33回全国バズ学習研究大会会長

名古屋工業高等学校長

林 典 照

はじめに第33回全国バズ学習研究大会が、本校を会場にして開催されますことを心から歓迎をし、また、お礼を申し上げます。

本日までに、全国バズ学習研究会の皆様が、着実な実践研究を深めていただいて、ここに、第33回の研究大会が立派に開催されますことを大変うれしく思います。

さて、平成14年度に新しい教育の幕開けを迎えるにあたり、教育改革の推進が急務となっています。

とくに、これからの変化の激しい社会に対応するために、「豊かな人間性」や「生きる力」が強く求められています。それは、周りと協調しつつ、感性や理性そして、主体性を育てていくことでもあります。

これらの観点は、人間関係を重視したバズ学習の実践的研究とぴったりと一致するものであり、様々な教育課題に対して、積極的に対応できるものと確信しております。

本大会を通して、参加された先生方の指導技術が向上し、これからの指導にすこしでも役に立ていただければ幸いです。どうか皆様、活発な議論によって、実のある大会にしていきたいと願っています。

第33回全国バズ学習研究大会開催に際して

全国バズ学習研究会研究者代表

名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授 梶田 正巳

新しい世紀に入り、教育への要求はますます高まっています。子どもたちが育つ世界の文化の変化・変容は目覚ましく、かれらの社会化への課題は多様化の一途をたどってきています。従来の教科の枠をこえて、環境、情報、国際理解など「流行」の範疇に入るとされる内容を積極的に教育課程に取り入れる形ができてきています。しかしその一方、人間の学習と発達の原理は不変のものとしてあることも忘れてはなりません。学習内容にも、時代をこえて一貫して習得すべきものも多いはずですが、学習指導の方法と内容の「不易」の部分十分に踏まえて「流行」に対応していくことが大事だと指摘できるでしょう。「不易」は保守ばかりではありません。われわれがまだ十分に見いだしていない意義がそこに含まれていることもあり得ます。たとえば新しい学力としてしばしば強調されてきている関心・意欲・態度を育てるための指導は、目新しい教材を準備するより、学習の原理を適切に理解して、これまでの学校の指導文化を見直すことで、より確実に前進するということがあるのではないのでしょうか。

バズ学習は学習と指導の原理に着目した指導法です。信頼にささえられた人間関係を教育の基盤とする考え方をいかに実践に適用するかがバズ学習です。その基本的な考え方の正しさは、これまでの長い実践の積み重ねが証明しています。さらに、近年、数々のすばらしいバズ学習実践が新しい教育課題に対応すべく作り出されてきています。ここに「不易」と「流行」のあるべき結びつきをみることができます。この大会でも、主体的な教師による子どもの主体的学習活動を可能にする数々の実践に出会えることが楽しみです。

この研究会は長きにわたって実践者の方々のご努力でささえられてきました。研究的実践のひとつのあるべきモデルといえます。会場をお引き受けいただいた名古屋工業高等学校の林典照先生には心よりお礼申し上げます。また全国バズ学習研究会の事務局の方々、ご提案、ご助言、司会、記録などお引き受けいただいた先生方にも深く感謝いたします。この大会をとおして、豊かな成果を子どもにもたらすことのできるバズ学習という指導論が、ますます多くの方々に知られ実践化が進む機会となることを期待したいと存じます。

全国バズ学習研究大会によせて

全国バズ学習研究会会長

愛知県春日井市立不二小学校長 堀場 正美

本年度、名古屋市の名古屋工業高等学校を会場に第33回全国バズ学習研究大会が開催できますことを大変喜んでおります。

さて、バズ学習は、「教育は人間関係を基盤として成り立つものである」をキーワードに、「自己教育、自己指導、自己訓練のできる人間、すなわち自主性、協調性、創造性の豊かな人間の育成」を基本的目標として、その効果的な達成のための方法論的研究と実践を積み重ね、30有余年にわたりバズ学習の推進に努め、教育の充実発展に資するとともに幾多の成果を上げ、今日にいたっています。

21世紀の教育において、私たちは子どもたち一人一人に、伸び伸びと自らの個性を存分に発揮させながら、「自ら学ぶ力」「生きる力」をしっかり身に付けさせることが求められています。そのためには、教育の「不易流行」をしっかり見据え、「自ら学ぶ力」「生きる力」の土台となる「基礎学力」の向上を子どもたち一人一人に図る必要があります。まさに、バズ学習の根本理念は、子ども一人一人を生かした学習指導方法であり、21世紀の新しい教育理念に合致していると考えます。

こうした状況の中で、「バズ学習」は、新しい「協同学習」という学習指導理念をも包含しながら教育現場で理論と実践に裏付けされた学習指導法の原理として浸透しつつあります。

今回の大会主題、「新しい教育の目指す方向とバズ学習」—新学習指導要領の主体的対応—について、基調提案「新しい教育と協同（バズ）学習」をはじめ、多くの実践研究発表をしていただき、今後の教育の課題に向けて積極的な意見交換ができる研究大会になればと願っております。

最後になりましたが、愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会ならびに教育関係諸機関の皆様のご支援をいただきましたことを心から感謝申し上げます。

併せて、今回、会場提供にご配慮いただきました名古屋工業高等学校、会員のご協力と役員をはじめ関係者の皆様のご支援に厚くお礼申し上げます。

ありがとうございました。

..... 目 次

はじめに

全国バス学習研究大会開催に際して

全国バス学習研究大会によせて

< 基調提案 >

新しい教育と協同（バス）学習 ー授業改善をどう図るかー

中京大学 杉江 修治…… 6

< 研究協議Ⅰ >

学びたい、そんな気持ちを子ども一人一人がもてるといいな

～様々な人との出会い、その生きる姿を追い求める活動を通して～

愛知県春日井市立牛山小学校 小川 治…… 10

< 研究協議 II >

国語科教育における協同学習の実践と可能性

岐阜大学大学院教科教育専攻 横幕 将成…… 24

アイデアの交流で創る図形の学習

東京都杉並区立東田中学校 下斗米八穂…… 30

「集団の中で自己の力を伸ばす生徒の育成」

ーバズ学習で基礎・基本の確実な定着をー

岐阜県土岐市立泉中学校 研究推進委員会

長瀬教行 古川稔彦 小栗祥吾…… 36

< 講演 >

「総合的な学習の時間の導入と教師の役割」

南山大学 石田 裕久先生…… 44

<基調提案>

新しい教育と協同（バズ）学習
—授業改善をどう図るか—

中京大学 杉江 修治

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

研究協議 I 「共に学び共に育つバズ学習」

学びたい、そんな気持ちを子ども一人一人がもてるといいな
～様々な人との出会い、その生きる姿を追い求める活動を通して～

愛知県春日井市立牛山小学校 小川 治

助言者

寺井 正輝（愛知県春日井市立柏原小学校）

伊藤 篤（神戸大学）

伊藤 康児（名城大学）

司会者

武山 春雄（愛知県春日井市立味美中学校）

記録者

今飯田 寛（愛知県春日井市立大手小学校）

『共に学び 共に育つ バズ学習』をめざして

研究主題

学びたい、そんな気持ちを子ども一人一人がもてるといいな

～様々な人と出会い、その生きる姿を追い求める活動を通して～

春日井市立牛山小学校

小川 治

1 主題設定の理由

子どもの頃は、誰しも大きな夢や希望を持っている。それが成長するにつれ、いつの間にか忘れ去られてしまう。そして、現代の小学生を見ると、年齢が上がるにつれて、自分が何かにひたむきにならばろうとしたり、がんばっている人の姿に感動したりする子どもがだんだんと少なくなっていると感じることはないだろうか。

複雑な社会環境のなかで、子どもは自分の夢や希望をなかなか見つけられないでいる。そのことが、何かに挑戦しようとする気持ちを生み出したり、何かを成し遂げたときの満足感を感じたり、みんなががんばるすばらしさを味わったりして生まれる「学びたい」と思う気持ちを、子どもの心のなかに覆い隠してしまっている。子ども一人一人が、その覆いを解き放ち、素直に「学びたい」という気持ちを発揮できるようになることは、これから生きる子どもにとって必要なことである。

また、これからの学びは、「学校」のなかだけで終わるものではなく、「生涯学び続ける」ものである。そこで、子ども一人一人が、じっくりと「学ぶこと」について考え、そのなかで、自分の学ぶ姿を振り返ったり、友達の学ぶ姿に感動したり、学び続ける努力を知ったりすることは、子どもにとって重要な課題である。そうした学習を繰り返し行うことで、子どもは、これから起こりうる様々なできごとに対して、自らの能力を最大限に使い、自らの良さを大いに発揮することができるようになり、それが、子どもにとって本当に「生きる力」につながる。

さらに、小学校最高学年である6年生は、少なからず将来の夢や希望をもっている。しかし、それらにたどり着くまでの道のりについて考えたり、その仕事について深く考えたりする学習活動は、ほとんどできていない。

そこで、新たに創設される「総合的な学習の時間」を大いに活用して、様々な世界で自分の夢を追い求め努力している人や、一つの仕事に情熱を捧げている人と出会い、その人とのかかわりのなかで、「学ぶ」・「働く」・「共に学ぶ喜びと達成感」などについて子ども一人一人が考える学習を行うことは、これからの生きるための基礎となる「学びたい」という意志を子ども自身の手で築きあげるうえで大変意義がある。

以上のことから、総合的な学習の場を活用して、子どもが、人とのかかわりのなかで、自分の学びをどのように育てるか研究していかなければならない。

2 目標

「人とのかかわり」に焦点を当て、子どもが、人間関係を基盤にして自らの

学びを育てることについて研究する。

3 めざす子ども像

- 小学校最高学年として、子どもが、自らの手で、「学び」について考えることができる。
- 様々な人々の働く喜び・学ぶ喜びを知り、生きる喜びを感じ取るなかで、子ども自身がこれから生きる力の基礎を身につけることができる。

4 研究の手だて

- (1) 1年間を見通して、「人とのかかわり」を意識した総合的な学習の時間の単元構成表を作成する。
- (2) 学校田を活用した勤労体験学習を生かす。
- (3) 直接・模擬体験をしたり、調査活動をしたりして、子どもが「学ぶ」ことを体感できるようにする。
- (4) 様々な人の一生懸命な姿に触れ合い、そこから人の生き方に焦点を当てた学習活動を組み立てる。
- (5) 子どもの考えを深める話し合い活動の活性化を図る。
- (6) 「学び」の意識を高める工夫をする。

5 実践の内容

(1) 総合的な学習の時間の単元構成表を作成する（資料1）

学校教育の場で様々な人とのかかわりを明確にするために、年間を見通した単元構成表を作成した。そのなかで、子どもの学びの発達段階を考え、学習課題を明示した。また、これらの課題に系統性をもたせ、段階をおった人とのかかわりのなかで、実践を深めることができるようにした。

以上のことから、この単元構成表のなかでは、「人とのかかわり」を

- 学級の小集団
- ◎ 学級全体
- △ 地域・身近な人
- ▲ 修学旅行で出会った人

の4種類のマークをつけて示すことにした。また、単元の学習課題を★マークで表わし、子どもが自分自身の手で活動することに重点を置いた学習時間は☆で表わした。

実践の際、単元は子どもの実態に合わせ柔軟に見直すようにし、子ども自らが学習の主体者であることが意識できる工夫を行った。各単元実践後は、子どもの声を聞き、「学び」についての子どもの姿を観察することにした。

(2) 「学び」の意識を高める工夫をする

子どもの学びは短期間の学習では深まらない。そして、学校生活や家庭生活など、子どもを取り巻く日常生活すべてが、子どもの学びを育てる場である。そこで、子どもの学びをどのように育てたいか、自分なりにまとめ、整理し、ねらいを明確にもった。そして、それをもとにして、系統的に考えた学習課題のなかの、①どのような場で、②どのような人と、③どうかかわりをもたせれ

ば、子どもの学びの意識をより高めることができるか考えた。下の表は、各段階においてめざす子どもの学びの意識の高まりをまとめたものである。また、①・②・③については、具体的に実践例のなかで述べることにする。

第1の段階の実践でめざす子どもの学び

- ・ 仕事調べに進んで取り組むことで、何事にも一生懸命がんばろうとする姿勢を身につける。
- ・ 仕事調べの体験から調べ方を学び、自分の力で相手の考えを知ることができるようにする。
- ・ 真剣に仕事に取り組み、やりがいをもって仕事をしている人の姿から、「生きがい」や「学ぶこと」について肌で感じることができる。

第2の段階の実践でめざす子どもの学び

- ・ これまでの努力・苦勞、これからの夢を理解するなかで仕事に傾ける情熱を知り、自分の現在と将来について考えることができる。
- ・ 様々な困難を乗り越えるための努力を知り、そのことから何事にも積極的にかかわり、意欲的に学ぼうとする気持ちをもてるようになる。

第3の段階の実践でめざす子どもの学び

- ・ 自分の将来について、希望と誇りをもって語るができる。
- ・ 今までの学習を通して自分の学び方を振り返り「本当の学びとは何か」自分なりに考えることができる。



めざす子ども像

- 小学校最高学年として、子どもが、自らの手で、「学び」について考えることができる。
- 様々な人々の働く喜び・学ぶ喜びを知り、生きる喜びを感じ取るなかで子ども自身がこれから生きる力の基礎を身につけることができる。

(3) 具体的な実践例

第1次 授業実践1 単元名 「仕事調べ発表会をしよう」

第1の段階の実践でめざす子どもの学び（単元の目標）

- ・ 仕事調べに進んで取り組むことで、何事にも一生懸命がんばろうとする姿勢を身につける。
- ・ 仕事調べの体験から調べ方を学び、自分の力で相手の考えを知ることができるようにする。
- ・ 真剣に仕事に取り組み、やりがいをもって仕事をしている人の姿から、「生きがい」や「学ぶこと」について肌で感じることができる。

学習課題

- ・ 家族や知り合いなど、身近な人の仕事について調べ、様々な人の生き方について考えよう。

学習の経過と子どもの姿

事前1

「国語の学習をもとにして、調べ方を学ぶ」

国語の時間に「与謝野晶子」の学習があり、その学習を広げる形で、自分が興味・関心をもっている人物調べを行った。まず、誰を調べるか決めた。子どもは、社会科で歴史の学習が始まったので歴史上の人物や、人のために尽くした人物、自分のもつハンデキャップを乗り越えた人物、世界で活躍している日本人などに興味をもった。次に、どんな内容を調べるといいかを話し合った。このとき、去年の国語の時間に「マザーテレサ」の一生を学習したことを多くの子どもが思い出し、その内容を振り返り、どんなことが書かれていたかを学級で発表し合った。マザーテレサの生い立ちや家庭環境、貧しい人々のために行ったことなどを教科書を使って出し合い、表にわかりやすくまとめた。それを参考にして調べる内容を決めた。その後、図書資料やインターネットを使って意欲的に調べ学習を行い、新聞の形でまとめ、発表した。

この学習を終えたとき、子どもは、何かに一生懸命に生きている姿、特に、ハンデキャップを乗り越えてがんばっている人物や人のために尽くした人物、何かに挑戦しようとしている人物に感銘を受けた。

事前2

「地域の人に目を向ける・・・学校田を活用した勤労体験学習を生かす」

牛山小学校では、毎年、学校田の田植えを行っている。しかし、今までの6年生は田植えだけを行い、米作りを通して何かを学ぶ学習としては、不十分であった。そこで、総合的な学習の時間を活用し、1年を通して米作りにかかわるようにした。校長先生やPTA・地域の人との話し合いを行い、その結果、前述した、総合的な学習の単元構成表にある内容について取り組むことにした。

6月2日(土) 学校田の草刈りをしよう

牛山小学校の学校田は子どもの通学路沿いにある。その様子は、周辺の田と大きく違い、背丈の長い草で覆われていた。

しかし、子どもは、そんな学校田の様子に全く関心がなく、子ども同士の会話のなかでも学校田のことは一言もなかった。そこで、帰りの会にもうすぐ田植えを行うことについて話をし、学校田の周辺について関心をもたせ、田植えだけしていればいいのか考えさせた。



〔草刈りをしたよ〕

そして、近々、PTAの人が草刈りに行くことを伝え、一緒に草刈りをしようと呼びかけた。草刈りの当日、子どもは、PTAの人に鎌の使い方などを教えてもらいながら、一生懸命、草刈りに取り組んだ。

〔子どもの声〕

S Y 僕は、最初、草刈りをあまりやらなかったけど、PTAの人に教えてもらったらずぐに草を刈れるようになった。

S I 農家の人は1時間以上もずっと草刈りをしているから大変だなと

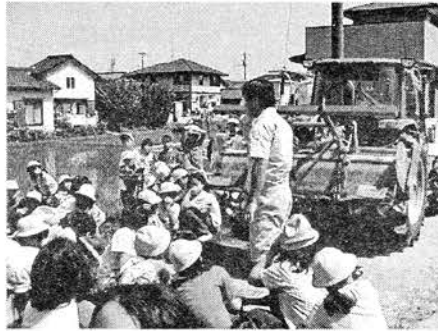
思いました。

A F 草を刈ろうとしたところに、犬の糞がたくさんあったので、ちゃんと糞を持ち帰ってほしいと思いました。

6月11日(月) しろかきを見学しよう

田植えをするまでの土作りについても関心をもっている子どもはあまりいない。だから、草刈りを終えて、子どもはすぐに田植えができると考えていた。そこで、米作りにとって土作りがどんなに大切なことか、農協の人から話を聞いた。

そして、実際に目の前で機械を使った作業を見て、子どもは、機械化が進んだ今日と違い昔の労働の大変さを痛感していた。



[しろかきの見学をしたよ]

[子どもの声]

RM 今日、しろかきを見学しました。そして、初めてお米ができるまでの苦労がわかりました。今は機械でやっているしろかきも、昔は手作業でやっていたそうです。

RK 今日、学校田の見学に行きました。田で稲を育てるときにいろいろと手をかけないと稲がたくさん育たないことがわかった。

KA 私は昔の大変さがよくわかりました。今日、見学に行ったときは、もちろん機械でやっていたけれど、乗っていたお兄さんはすごく一生懸命でした。

6月18日(月) 田植えをしよう

田植えの準備は農協に依頼してある。そのため、子どもは、苗がどのように育ち、どのようにして自分たちの手に届くか知らない。しかし、田植えを通して、子どもが楽しく体験活動ができ、そのなかで何かを学ぶことができるよう、担任として、当日まで、保護者をはじめ地域の指導者の方と打ち合わせを行った。子どもは、保護者とともに地域の指導者のもとで行った田植えから様々な新しい発見をした。



[田植えをしたよ]

[子どもの声]

Y O 今日、田植えをやりました。石一さんに苗の植え方を教えてもらいました。楽しかったです。

R M 私は田植えがとても大変なことがわかりました。あんな足場が悪いところに立って苗を植えるなんて、やってみてすごいなと思いました。

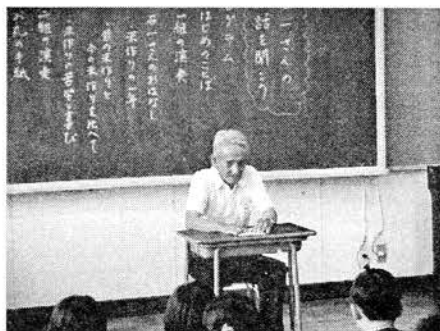
Y S 僕は田植えは初めてで、すごく難しかったけど、一生懸命やりま

した。石一さんは30年田植えをやっているのですごく上手だなと思いました。

NO こんなに田植えが難しいと知りませんでした。石一さんの苦勞がわかりました。

6月22日(金) 石一さんのお話を聞こう

田植えでお世話になった地域の指導者である稲垣石一さんを学校へ迎え、学校田についていろいろな話を聞いた。石一さんの話のなかでも、「米作りは八十八回手間をかけないとおいしい米はできない」という言葉が子どもの心に残った。また、昔の地域の様子や学校生活のことなど、子どもが知らないことがたくさんあり、子どもの目は話をしている石一さんに釘付けであった。



[石一さんの話を聞いたよ]

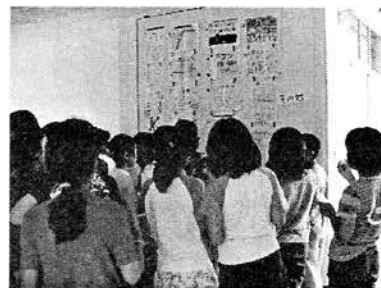
[子どもの声]

AK やっぱ昔の人って偉い

んだな。学校で電気もないのに勉強してすごい。

RK 今日は石一さんが昔のことや田植えについて話をしてくれました。一番びっくりしたのは、この牛山小学校が、昔は山だったということです。石一さんにお礼の気持ちでいっぱいです。

KM 「米」という漢字は八十八回手間をかけるという意味だと聞いてびっくりした。



[ポスターを選ぼう]

7月 学校田のポスターを書こう

学校田を大切にしようとする気持ちを継続させるための手だてとして、子どもは、学校田のポスターづくりを行った。犬の糞害を訴えるもの、稲が実ることを願うもの、自分たちが稲を大切に育てていることを訴えるものなど、それぞれに工夫を凝らして作った。それを、みんなで投票して選び、学校田に看板として立てた。

現在では、すずめ脅しを作ろうという計画が持ち上がっている。そして、今後は、稲刈りや収穫した米での「おはぎまつり」が計画されている。

[学校田を通しての実践についての考察]

保護者とともに地域の方の指導のもとに田植えを行った。その後、米作りの苦勞や喜びについて、地域の方を招待して話を聞いた。その際、地域の方は、子どもが一生懸命に田植えをする姿に感動したことを話した。そのことが子どもを心を引きつけ、子どもは、長年の経験で田植えについて指導していた地域の方の姿を思い浮かべながら、自分の周りにも、仕事に対して一生懸命な素晴らしい人がたくさんいるのではないかと気づいていった。

第1時 「仕事調べの計画を立てよう」

[学びを高める場面の設定]

- ①計画を立てる場で
- ②学級の友達と
- ③調査カード作りの話し合い

事前1・2を終えて、教師の側から、有名な人物だけでなく、それぞれの人にはその人の歴史があり、すばらしい生き方をしているのではないかと子どもに話し、子どもの目が、学校田を通しての実践のとき以上に身近な地域の人々に向くように支援をした。そして、身近な人のなかで仕事調べを試みようと呼びかけをした。すると、「やってみたい」という返事がすぐさま返ってくる。同時に、「誰を調べたらいいの」「何を聞いたらいいの」「いつ調べに行くの」など不安の声も聞こえてきた。そこで、「自分に一番近い相手に聞いてみよう」「一番聞きやすい人に聞いてみよう」「相手の都合を聞いて聞き取りをしよう」と助言した。聞き取りの内容については、どんなことを聞いてみたいか学級全体で話し合った。初めての聞き取り調査で、しかも、夏休み中に子ども自身で行うためには、聞き取りの内容が明確で、質問する子どもの側がはっきりと何のためにやるのかを理解していなくてはならない。そこで、なぜ仕事調べをしようと呼びかけたか、そのねらいについて、教師の願い（様々な人の生き方を学び、自分の学びを振り返ってほしい。そのはじめの段階としての実践であること）を伝えた。そして、子どもの意見をまとめた調査用紙を作成し、聞き取りを行うことにした。調べてくる人数は複数とし、聞き取り調査を繰り返すうちに、子ども一人一人が、自分自身の手で、「学び方を学ぶ」ことができるようにした。そうすることで、子どもは、自分の仕事に情熱を捧げている人を見つけ出し、聞き取りの仕方やマナーを体験から感じ取ることができるようになると思った。また、自分の身の周りにも、がんばっている人が多く存在する事実も知ることができると考えた。そして、調査カードには、6年生へのメッセージを書いてもらうことにし、それを子どもが読むことで、仕事への情熱を感じ取り、「生きる」「学ぶ」ことについて意識できるようにした。

第2・3時 「仕事調べ聞き取り調査をしよう」

[学びを高める場面の設定]

- ①聞き取り調査の場で
- ②家族や親戚など身近な人から地域の人に広げて
- ③聞き取り（夏休み中）

1学期の終業式に、聞き取り調査について「出校日までにひとりはやってみよう」と話した。そして、1回目の出校日に、聞き取り調査を試みた感想を聞くことにした。「お父さんやお母さんやおじさんに聞いたので、うまく聞けて、どういう仕事をしているかよくわかった」「お父さんやお母さんにしっかりとインタビューができた」と言った子どもがいる一方で、「相手と時間が合わなくて、ゆっくりと話が聞けなかった」「同じことを2回も聞いてしまった」と反省をしている子どももいた。そして、「今度はあわてずに聞こう」「写真も撮ってこよう」「時間を決めて調べよう」など2学期までにはもっと上手に仕事調べをやろうと、意欲的に話していた。また、聞き取りがうまくいかない友

達に「アポをとってからいくといいよ」とアドバイスをしている姿も見られた。

第4時 「夏休みの仕事調べの 発表会をしよう」

[学びを高める場面の設定]

- ①発表会の場で
- ②班や学級の友達と
- ③発表し合う



[班のなかで発表会をしたよ]

2学期になり、いよいよ仕事調べの発表会の日がやってきた。まず、教師の側から、発表会の仕方について話をした。発表する側に対しては「誰を調べてきたか」「どんな仕事をしているか」「どうしてその仕事を選んだか」

「仕事のやりがいとは何か」などについて、聞いてきたことを自分の言葉にして発表するようにした。また、聞き手の子どもに対しては発表の内容を、自分の言葉でまとめてメモするようにし、感動したことやびっくりしたことなどを書くようにした。

そして、実際の発表会を開くことになった。全員の発表をクラスの仲間全員が聞くことが最もよいと思うが、時間的にも多くかかり、発表する側も聞く側も、より真剣味をもった発表にしようと考え、班のなかでの発表会をまず行った。どの班も、友達の仕事調べの発表を間近に聞くことができるので、とても楽しそうに、そして、真剣に発表し合っていた。班長が発表会のリーダーとなり、発表する前に発表者が自分の言葉で発表ができるよう時間をとるようにした。そうすることで、発表する側は、仕事調べをしたときのことを思い出しながら発表の言葉を考えることができた。また、聞く側は、もう一度聞きたいことなどを気軽に発表者に聞くなどして、友達の仕事調べを自分のものにしていった。そして、聞き手は発表者に対して、その都度、感想や参考になったことなどを述べるようにして、互いに認め合った。



[学級で発表会を開いたよ]

その後、班の発表の代表者をきめ、クラス全体のなかで発表した。子どもたちは、自分の班から選ばれた友達の発表に「班のなかで発表した〇〇がまだ言えてないよ」などとアドバイスをしていた。

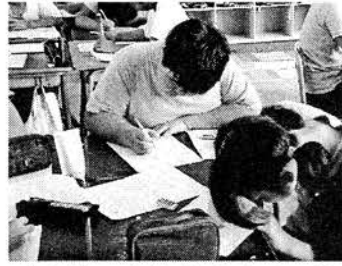
第5時 「発表会を開いて学んだことを話し合おう」

[学びを高める場面の設定]

- ①自由討論の場で
- ②学級の友達と
- ③考えを述べ合う話し合い

発表を聞いて印象に残ったことや考えたことを自由に発表する話し合い活動

の時間をもった。話し合いの様子から、この発表会を通して、子どもは、「仕事には様々な種類があること」「仕事の大変さ」「今まで知らなかったお父さんやお母さんの仕事のすばらしさ」「誰でも仕事に情熱をもって取り組んでいること」など様々なことに気がついた。



そして、仕事調べから自分のことを振り返ったり、自分の夢について考えたりする子どももいた。話し合いの後、教師側から、夢を追い求めて少年時代にブラジルに渡ったサッカー選手が、現在でも夢を持って走り続けていることを語った。

【自分の考えをまとめて】

最後に、子どもが、仕事調べで聞き取りをしてきた「6年生へのメッセージ」を読んで、この学習のまとめにした。

【仕事調べの実践についての考察】

仕事調べやその発表会を通しての様々な人とのかかわりから、子どもは多くのことを学んだ。仕事調べでは、「学び方を学ぶ」力がつき、これからの調査活動に自信がもてた。発表会では、班や学級会の話し合い活動のなかで、互いに考えを出し合い、深め合う力がついた。そして、真剣に仕事に取り組み、やりがいをもって仕事をしている人の姿から、子どもは何事にも一生懸命がんばろうという気持ちを身につけた。また、自分の「生きがい」や「夢」について意識できるようになった。さらに、第2段階の実践でめざそうとしている「学び」の意識にまで到達しつつある子どももいた。

6 これまでの研究の成果

総合的な学習の時間を主に活用して、本研究に取り組んでいるが、子どもと様々な人とのかかわりを大切にした学習活動を組み立てるためには、「どんな人とかかわればいいのか」「授業時間数は大丈夫か」など多くの問題があり、それらを解決して学習に取りかかかなければならない。そのため、第1の段階から第3の段階までの実践が、本研究発表会までには、完結しておらず、現在は、第1の段階から第2の段階へ進んでいる最中である。そこで、これまでの実践で、子どもがどのように変わってきたかまとめた。

(1) 1年を見通して、「人とのかかわり」を意識した総合的な学習の時間の単元構成表を作成し、実践を試みた。子どもの学びの発達段階を考え、学習課題を明示し、めざす子どもの学びの姿を明確にして学習を進めたことで、子どもは、学習が進むにつれ、自身の課題意識を強くもつようになり、「人とのかかわり」から学んだことを自分の学びとして意識できるようになってきた。そして、自分の手で「学びたい」という意欲を高めることができた。

(2) 地域の人と一緒にあって、学校田での田植えや草刈りなどを実際に体験した。また、稲を育てる仕事について農家の人の話を聞いた。こうした活動を通して、子どもは、地域の人と出会い、触れ合った。そして、身近な地域の人から仕事に生きる人の姿を肌で感じ取ることができた。

(3) 「学校田の米づくりの活動」や「仕事調べの活動」から、子どもは様々な人の一生懸命な姿に触れ、働く意味や働く喜び・苦労などを知り、一人一人がその生き方について考えた。その結果、子どもは、様々な仕事にかかわっている人たちからも「何かを学びたい」という気持ちを強くもつようになった。

(4) 「仕事調べ」など調査・体験活動をする際、その活動をより深めるために、子ども一人一人が事前に調べたり、質問・疑問について学習したりして、何のための調査・体験活動なのか意識させた。また、調べたことをどうまとめ、表現するか、目的をもたせた。その結果、調査活動をもとにした子どもの話し合いを中心とする学習活動が活発化し、子どもは互いの考えを知り合い、思考を深めることができた。

7 まとめ

「学校田の米づくり」や「仕事調べ」で身につけた学びを基礎にして、修学旅行での体験活動をもとにした学習や、卒業を見据えた自分の将来を考える学習をする予定である。そして、こうした学習を連続して実践していくことこそが、子どもが、自分の「学び」について深く考えることにつながると考える。

また、実践のなかで、子どもが「学びたい」という気持ちを常に大切にしたい学習活動を組み立てることが、教師の最大の支援である。

そうすることで、この実践が終わってもなお、自身の「学ぶ姿」を問い直し、振り返りながら、生涯学び続けるための「自分の学び」について考える子どもの姿を、我々は見るようになるであろう。

資料1

総合的な学習の時間の単元構成表

月	郷土を知ろう 2 2	学 年 7 2	情報処理1 4 児童会4 性教育3
4		夢に向かってはばたけ牛山っ子 (5) ◎学級の目標を作ろう ◎学級の組織を作ろう ◎学級のきまりを作ろう	縦割り班活動を成功させよう(2) ○最高学年の自覚をもとう ○名簿作りをしよう
5		短歌や俳句を作ろう(2) ☆いろいろな短歌や俳句を見つけよう 1 ☆短歌や俳句を作ろう 1 スポーツチャレンジ(3) ☆スポーツテスト	情報処理教育(2) ○ローマ字入力で50音を書く ○ローマ字入力で撥音や促音を書こう
6	学校田は宝物(4) △◎みんなで協力して学校田の草刈りをしよう 2 △しろかきを見学しよう 2 学校田は宝物(6) ◎田植えの計画を立てよう 1 △◎田植えをしよう 4 △◎地域の人から米作りについて聞こう 1	夢に向かってはばたけ牛山っ子【国語】(4) ☆伝記を読んで、そのすばらしい生涯を体感しよう 2 ☆卒業アルバムの写真を撮ろう 2	情報処理教育(3) ☆インターネットなどを使って調べてみよう 国語の伝記調べをもとに
7	学校田は宝物(3) ◎学校田のポスターを作ろう 2 ◎学校田のポスターを選ぼう 1	夢に向かってはばたけ牛山っ子 ★家族や知り合いの中で、いろいろな人の人生を考えてみよう。また、いろいろな職業について調べてみよう 第1次 授業実践1 仕事調べ発表会をしよう 5 ◎夏休みにいろいろな仕事を調べる計画を立てよう 1 △仕事調べ聞き取り調査をしよう 2・3	情報処理教育(3) ☆調べたことを作文に書いてみよう
8	学校田は宝物(1) ◎学校田のポスターを立てよう	スポーツチャレンジ(6) ☆組み立て体操がんばろう 夢に向かってはばたけ牛山っ子 ◎○夏休みの仕事調べの発表会をしよう 1 ◎仕事調べをして学んだことを話し合おう 1 夢に向かってはばたけ牛山っ子 第1次 授業実践2 先生になる秘密を探ろう 9 ◎○先生の秘密を探る計画を立てよう 2 △○先生の秘密を探ってください(聞き取り調査) 1 ◎先生の秘密をまとめよう 3 ◎先生の秘密を知ろう 1	

10	<p>学校田は宝物 (1)</p> <p>◎学校田の稲刈りの計画を立てよう</p>	<p>◎◎発表会をしよう 1</p> <p>△◎校長先生の秘密が今明かされる 1</p> <p>☆お礼の手を書いて送ろう 1</p> <p>夢に向かってはばたけ牛山っ子</p> <p>★仕事に情熱を捧げている人の姿を見つめよう</p> <p>★様々な仕事で活躍している人の姿に会おう</p> <p>第2次 授業実践1</p> <p>職人の仕事への情熱を感じ取ろう 9</p> <p>△◎地域でがんばっている職人さんに出会おう 3</p> <p>◎◎職人さんと語ろう会の用意をしよう 1</p> <p>△◎職人さんと語ろう 1</p> <p>○大工さんへの道という新聞をグループで作ろう 3</p> <p>◎◎発表会を開こう 1</p>	<p>情報処理教育 (2)</p> <p>○インターネットなどを使って調べてみよう</p> <p>修学旅行について、行ってみたい場所や体験したいことを調べてみよう</p>
11	<p>学校田は宝物 (2)</p> <p>△◎稲刈りを手伝おう</p> <p>学校田は宝物 (3)</p> <p>○おはぎ祭りを計画しよう 1</p> <p>○おはぎ祭りをしよう 2</p>	<p>夢に向かってはばたけ牛山っ子 (4)</p> <p>◎◎修学旅行の計画を立てよう</p> <p>夢に向かってはばたけ牛山っ子</p> <p>第2次 授業実践2</p> <p>修学旅行で出会う人々の生き様を感じ取ろう 12</p> <p>◎◎質問カードや約束事を作ろう 3</p> <p>豆腐づくり, 友禅染め, 西陣織, 京菓子, 俳優, バスガイド, 添乗員など</p> <p>▲◎聞き取り調査活動 2</p> <p>◎◎すごい人壁新聞を書く計画を立てよう 1</p> <p>○すごい人壁新聞を書こう 3</p> <p>◎◎発表会を開こう 1</p> <p>◎学んだことを話し合おう 1</p>	<p>情報処理教育 (4)</p> <p>○インターネットなどを使って調べてみよう</p> <p>修学旅行のしおり作りに挑戦しよう</p>
12	<p>学校田は宝物 (2)</p> <p>◎学校田暦をつくろう</p> <p>☆米作りをして</p> <p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>	<p>夢に向かってはばたけ牛山っ子</p> <p>★自分の将来の夢について考えてみよう</p> <p>第3次 授業実践1</p> <p>自分の夢を大いに語ろう 13</p> <p>☆自分の将来の夢を文集に書こう 3</p> <p>☆夢設計図を創ろう 5</p> <p>△◎人生の先輩から学ぼう 4</p> <p>☆卒業式で夢を語ろう! 1</p>	<p>性教育 (3)</p> <p>☆いのちの誕生を調べよう</p> <p>卒業生を送る会 (2)</p> <p>○出し物を考えよう</p> <p>○卒業生を送る会</p>

研究協議 II 「学ぶ力を育てるバズ学習」

国語科教育における協同学習の実践と可能性

岐阜大学大学院教科教育専攻 横幕 将成

助言者

鹿内 信善（北海道教育大学）

萩原克巳（前南山大学）

宇田 光（松阪大学）

司会者

鈴木 収（愛知県教育委員会尾張教育事務所）

記録者

内藤 昇（愛知県春日井市立篠木小学校）

国語科教育における協同学習の実践と可能性

岐阜大学大学院 教科教育専攻
横 幕 将 成

1、はじめに

(1) バズ学習は教師人生を変えた。

もともと「意見をたくさん出せる方法はないか」と考えていたときに、ある研修会で知ったのがバズ学習である。

このころ私は授業をするのが嫌だった。盛り上がらない授業。私語。「先生の授業はおもしろかった。でも、成績は下がりました。」という生徒の声。「みづからの光のごとき明るさをささげて咲けりくれなゐの薔薇」という短歌の鑑賞文に、ある生徒がロボットを登場させたときは、「生徒にいくら教えても分かってもらえない」と無力感を感じた。

研修会でこの「方法」を知った私は、軽い気持ちで、それも、みようみまねで試してみた。授業が変わった。多様な意見があふれるようになった。仲間の意見のよさを生徒が感じるようになった。全員が参加するようになった。人間関係も改善されていった。

あれから5年が経った。目の前に生徒はいない。院生としての生活も捨てがたいが、今、私は授業がしたい。

(2) 国語科教育に必要な理由

私はここまで個人で実践してきた。そのため、学校全体、各教科のことを考えた話ができない。国語科における必要性について考えてみたい。

私自身の考えなのだが、国語は「技能教科」である。国語科で育成すべき力を一言で言ってしまうと「言葉を自在に操る力」であろう。たとえば、「海」という言葉から何を連想するだろう。これは一人一人の生活体験、文脈、声に出して読んだときならその読み方でかなり多様な意見が出てくるだろう。「ことばのひきだし」「ことばのものさし」これをどれだけ持っているかで「国語ができる、できない」は変わるだろう。授業でそれを身につけるためには、多様な考え方にふれさせる必要がある。

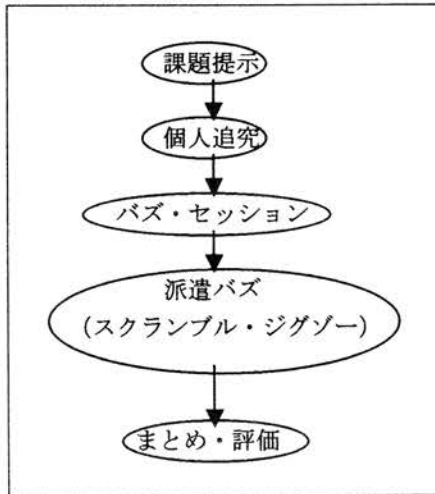
また、新学習指導要領では「伝え合う力」の育成をねらい、「話すこと・聞くこと」が重視されている。どの教科の基礎ともなりうることであるが、国語科はその力そのものの育成を担っている。

しかし、この「伝え合う力」は、「人間関係を作ること」に絡んでくる。(西尾実の「通じ合い」概念との比較からも分かる。「伝え合う力」育成のための基礎とも言える、意識したい「五つの言語意識」がある。しかし、西尾は「心のやりとり」を基盤としているのに対し、この「五つの言語意識」は「人と人との心のやりとり」という人間関係を作るためのマニュアルというとらえ方をしてよいと思われる。参考文献 安直哉『話すこと・聞くことの教育学』「話すこと・聞くこと」の実践例として、ディベートやパネルディスカッションの実践例があるが、果たしてこうした方法の工夫だけで「伝え合う力」がつくかどうかである。人間関係がうまくいっていないと、学級が壊れる原因になりはしないだろうか。

バズ学習は「認知と態度の同時達成」をねらっている。現在の国語科をめぐる状況は、まさにバズ学習のねらっていることをやらなくてはならない状況であるといえる。

2、 実践

(1) 1時間の授業の流れ



左記のように授業は進行する。

課題を提示後、個人追究の時間を5分から10分とり、グループでのバズ・セッションに入る(生活班を使うことが多かった)。

意見交流の後、スクランブル(自由バズ)やジグソー法で、他のグループの情報を集める。約2分後、グループに戻り、情報を確認し、まとめる。

その後、全体交流として、指名されたグループの代表(班長とは限らない)が発表。他のグループや教師からの補足をする。最後に、授業後の感想や、各自で学んだことなどを記録し、授業を終了する。

(2) 実践例 中学校1年生「北中学校を後輩に紹介しよう」(全9時間)

○ ねらい

作文嫌いの生徒は多い。しかし、「文を書くこと」は嫌いではない。携帯電話のメール。女子生徒が隠して回す手紙。要は、「相手」「目的」「必然性」があれば、書く気は起こるのである。そこで、以下のような学習活動、単元の目標を立て、実践を進めた。

(学習活動)

- ・ 小学6年生に対する学校紹介リーフレット作りを通して、構想の立て方、文章構成の仕方、相手の興味を引く表現の工夫について学ぶ。

(単元の目標)

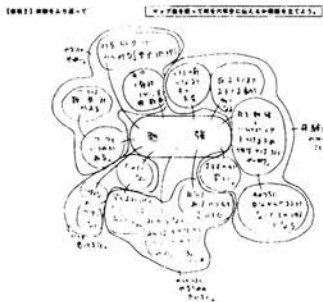
- ・ 入学してくる6年生に中学校生活を紹介するために、伝えたい内容を明確にした上で、自分の体験を振り返り、その体験の中から適切な題材を選ぶことができる。
- ・ 相手と目的を意識し、自分の体験や考えをより分かりやすく伝えるために、題材をどうとらえるか仲間と学びあい、自分の表現に生かすことができる。

○ 実践の内容 []内は学習形態

【第1時】高校の生徒募集用パンフレットを参考に、小学6年生にリーフレットを渡す意図と目的を明確にし、相手に興味を持ってもらうための工夫について考える。 [生活班]

【第2,3時】6年生に伝えたいことをマップ法を用い書き出し、構想を練る。 [個人]

「何を書けばいいか分からない」ということが作文を書く上での障害である。そんな生徒への対応として、「ウエビング」を活用した。第3時でスクランブルを行ない、同じ題材を選んでいるもの同士交流し、さらに多くの材料があることに気づかせた。



☆ 書いていて楽しい。普通に「書け」って言われるとなんかつまんないし、アイディア浮かばないし。でもマップ法は書いていると楽しいし、アイディアが浮かぶ。
(Y. K女)

【第4,5時】構想をもとに体験や思いを下書きする。 [個人]

【第6時】仲間と交流し、相手に自分の体験や思いをよりの確に分かってもらえるように推敲する。 [テーマ別グループ]

下書きを書き上げた後、工夫したポイントを明確にして仲間同士で批評しあい、より6年生に自分の考えが伝わるように推敲した。教師は先に評価をし、書き出しの表現の工夫など、考える視点を与えた。

また、ここで選んだ題材、内容、学力、人間関係を加味したテーマ別グループに学習形態を変更した。人数は読み合う時間、批評するための時間の短縮と意見の出しやすさを考え、3~4人とした。「これ、こうしたんだけど、どうかなあ」などと仲間に意見を求めながら推敲を進めていた。

☆ 教師側から紹介した例

「うわぁー、次、数学…」と6年生も「そうそう、思う、思う」と感じてくれるような出だしにした。
(W. O女)

☆ 交流の中から取り入れた内容

自分の思い、体験談などからもっと書こうと思う。そして、小学校とは違う中学校の授業から自分自身にプラスになったことを6年生に伝えたい。
(Y. S男)

学級委員が話した言葉を入れることにした。その言葉を具体的に分かりやすく書いた。
(E. U女)

【第7時】リーフレットの担当ページのレイアウトをグループごとに考える。

[テーマ別グループ]

【第8,9時】文章を清書し、グループの担当ページを完成させる。 [テーマ別グループ]

どうしてもだらけてしまう活動である。が、相手意識、目的意識を持つことで写真やイラスト、見出しの書体にいたるまで仲間同士こだわりを持って話し合い、楽しく、かつ、厳しく活動していた。

○ 成果と課題

この実践では、「相手に自分の体験や考えを正確に伝え、納得させる」ことを最大の目標にしていたが、小集団、あるいは1対1のバズ・セッションを行なうことで常にこの視点を持ちながら考えることができた。そして、改善点を常に明らかにして活動することができた。未提出者も学年140名中3名で、作文が苦手な生徒もアドバイスを受けて、仲間の書きぶりをまねしたりすることで、「やった、書けたぞ!」という実感を持てるような文章を書くことができた。

しかし、課題で何をすればいいのか明確にできず、生徒の活動が停滞した時間があった。例えば、第6時は「6年生により分かってもらえるように表現を工夫しよう」という課題であったが、グループ内での意見交流がこの時間だけ停滞した。推敲する観点が多く、表現を直すポイントが多岐にわたったため、考える時間だけでかなりかかってしまったのだ。「この1時間でこれが分かればいいのだ」ということを生徒が理解し、実感できたかという疑問が残る実践である。

3、 おわりに

(1) 今、感じている課題

○ 旧態依然とした展開の打破

小集団での学習成果を全体にどう広めるか。いろいろ方法はあるだろうが、どうも国語科の授業ではこれまでと変わらず、どうしても全ての班に発表させたり、一度席を戻して挙手発言で聞いたりする傾向がある。

○ 課題の持つ重み

課題はその1時間の授業でつけるべき力を明確にあらわしたものでありたい。また、そのほうが生徒の学習は盛り上がる。国語科というと「…はなぜか」「…の気持ちは？」という課題が多い。「登場人物がとった行動の理由や気持ちなど、作家とその人物以外分らない」ようなものを課題にするのではなく、「…という方法を使って、～が分かる」という課題のほうが子どもの力になるはずだ。

○ いわゆる「参加しない生徒」の扱い

いろいろなタイプがあるが、おそらく内容が理解できないことと、参加しなくても学習が進んでいくことが参加しない一員であろう。活躍の場を与えたい。

○ 評価の工夫

単元見通し方式をとった場合の評価カードの内容に工夫が必要である。その1時間でどんな力をつけるために学習するのかを分かるようなものにしたい。

(2) 今後の方向性

○ 小集団を使うことのメリットを最大限に生かす

私は全体交流の場で、最高で3つの班を意図的に指名し、代表者にバズ・セッションの結果について発表させる。その後、学習内容の確認とさらにレベルを高めるような発問を教師側から行ない終了する。ジグソーを行なうことで半分以上の意見はそれぞれのグループに集まっているからである。全体交流の時間を短縮することで小集団での学習時間がより確保される。このように、小集団で学習することのメリットを生かせるような方法がないか、検討していくことが大切だろう。

○ 子どもの目に見える評価を

一人一人、あるいはグループにどんな力がついたのか分かるような評価の仕方を考える必要がある。また、事前、事後テストの内容についても、課題がつけるべき力を明確に示しているものであるなら、教材の内容にこだわらず、例えば文章の構成の仕方といった、単元でつけるべき力がついたかが分かる内容にしたい。

○ 最後は個に返したい

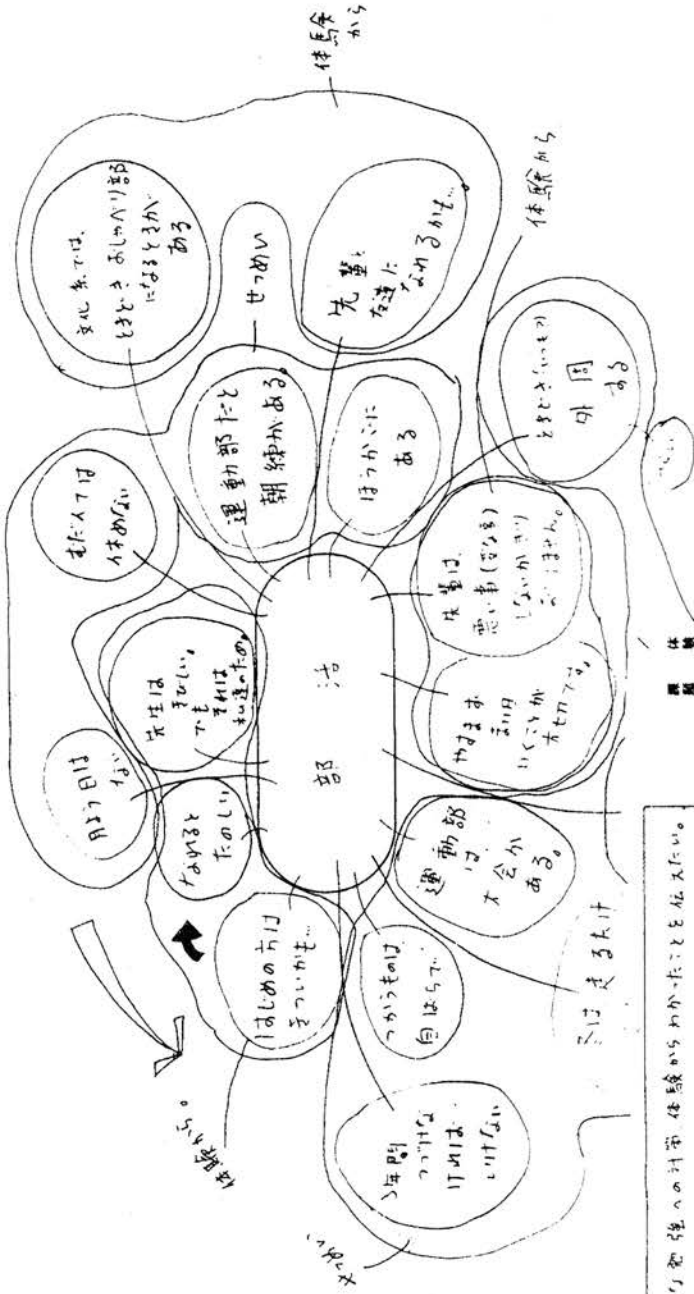
集団で学んだことを使えなくては本当に身についたことにはならない。学んだことを個で試す場を必ず作りたい。去年担任していたクラスでは、生活記録ノートを忘れると帰りの会でスピーチをさせていた。忘れる生徒はだいたい決まっている。が、人前で話すのが苦手だった生徒も決められたテーマに沿って堂々と話すようになった。場と時間さえ確保すれば力はつくのである。

○ 先人の実践に学ぶ

協同学習という面から見れば、国語科では「生活綴方」という偉大な実践がある。先人たちの実践から、私たちが実践で悩んでいることの答えが見つかるかもしれない。

資料 I M子作成したマップ・下書き

マップ法を使って何を六年生に伝えるか構想を立てよう。



伝えたいこと
 学習の楽しさを伝える。勉強の楽しさを伝える。仲間との絆を伝える。先生との絆を伝える。

体験して分かること
 勉強は好きですか。私は大好きです。勉強は嫌いではないですか。私は好きです。勉強は嫌いではないですか。私は好きです。勉強は嫌いではないですか。私は好きです。

まとめ
 勉強は好きですか。私は大好きです。勉強は嫌いではないですか。私は好きです。勉強は嫌いではないですか。私は好きです。勉強は嫌いではないですか。私は好きです。

仲間からの
 応援が
 たいへん
 ありがたいです。

中学校での勉強人生

〈第一章 プロローグ〉

小学校での勉強はとにかく、楽しかったという人、辛かったという人、いろいろいると思います。でも、中学校での勉強は、もともと大変です。でも、中学校での勉強は、この先、とても大事になってきます。

〈第二章 家庭学習〉

まず、主な家庭学習は自主勉強です。自主といっても、毎日必ずやらなければいけません。内容は国語、算数、英語、数学、どれも一日一ページずつです。最低限の家庭学習は、殆ど自主勉強だけです。その日の授業で習ったことのまとめ、次の授業の勉強、つまり予習復習が、小必修になってきます。始めの方の授業は、簡単ですが、そのときに予習復習を疎

かにすると、学校の授業についていけなくなったり、いざテスト勉強(後)を説明の時に、何も分からなかったりとなにかと大変な目にあったりします。

その家庭学習を怠ると、僕の経験上、長い間がっつりつけておられると嫌になてきます。そこで、何分やたら休憩、また何分やたら休憩という感じで途中に休憩を入れると、こう構ります。この方法は、テスト勉強でも、後で説明の時に、よく使います。中学校での家庭学習は、このように進めるといいかなーと思っています。

〈第三章 テスト〉

中学校でのテストは、小学校のように単元が終わるごとにテストをするのではなく、一学期ごと、二学期ごとに三回、中間と期末があり、三学期には実力テストもあります。だから、一つのテストの範囲が、とても広く、前日にテスト勉強！という

ことでは間にありません。このために、週間前からテスト期間といふものがあります。この期間は、テスト勉強に打ちこむことが出来ます。この勉強の時も、前の家庭学習で説明した方法を使つて、効率よく進めることが出来ると思います。でも、テスト勉強は自分の勉強なので、自分なりの勉強をして下さい。

テストの日は、今までの成果を出しきるだけです。見直しは絶対必要です。

僕は、このように説明をしてきたけれど、実際、こんなにきちりやるのは、僕も無理です。ただ、みんなにこんなふうに頑張ってもらいたいと思っています。勉強は、もしかしたら辛くて面倒臭くて大変だけれど、この先、とても大事です。みんなは、僕のようにならないように！

「不安がいっつ。」

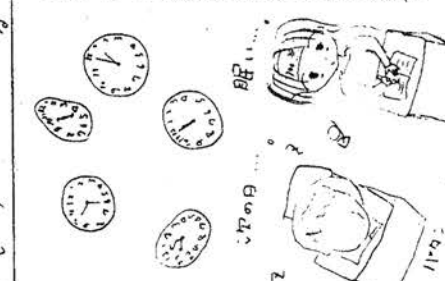
〈社。五時〉

勉強は好きですが、私は嫌いで、勉強なんて好きなのは、人でしょうか。私は、いつも人とくさいつまんじりやりたくない。とはかり思っています。

〈体験して、正事〉

でも、私は一年生になつて、初めて、大きな事があつた。自習勉強とは、自主物にやるものですか、どうかといつと一年生は、強制的です。理由は、やるほど付けるためです。そして、その強制的にでもやっているうちに、

自分から出来るようになり、それが習慣になります。中学生になつたら、進むのかわとも迷いません。予習復習も自主勉強もかねて全部やると、復習の手で起きている事が多くなります。そして、テスト前になると、とても大変になります。



〈やること〉

やることは、毎日家で国語の漢字、数学、英語をそれそれ一ページずつやります。これは、土日でも同じです。他には、〇〇という問題集が配られます。教材は、数学、英語、社会です。これは、毎日とか、決められてなくて、期限が発表されたら、それまで、自主的にやっておきます。中学生になつたら、

明らかにちがつ事があつた。社会が二つに分かれることです。歴史と地理に分かれます。

〈自主物の対策法〉

今まで、紹介して来た中で、家でやる自主勉強について、能率よくやるための対策を教えたい。まずは、自分に合ったやり方を見つけてもらう。そして、分からない所があつたら、すぐ先生や、年の下のうらちにアツいてもらつて、そして、楽しい事を後にして、勉強を先にやります。ちと早くおわる事です。

〈私から、メッセ〉

これを、読んで、少しは不安がなくなると思います。また、また、みんなの、思ふなら、ないか、もし、いけ、いろいろ、田、作業、あ、たら、い、下、いろいろ、不安、ある、と思う、けど、あ、行、た、な、ら、大、丈夫、。



資料 3 ある中学校の単元指導計画

五 単元指導計画 生徒総合単元 「私たちが大人にならなとき」(全十 時間)

単元目標

① 社会への視野を広げ、自分との関わりを考えながら意見を述べることが出来る。
 ② 仲間との生命や資料、話す姿をよく見ることによって言葉の使い方や選び方を学び、自分の表現する力を高めていくことが出来る。
 ③ 他者の意見を参考にし、自分の意見を深め、分かりやすく話すと共に、仲間の意見の要点をおさえていくことが出来る。

今、社会に対する意見や自分の生き方を新聞、ホームページへ投稿することを通して

学習教材
 「字のないはがき」(光村2年生教科書)「新聞記事」(新聞資料)「新聞の投稿欄」
 「ホームページの伝言板」(ホームページ資料)
 「座談会とその進行」(自分の意見の発信法)

学習の手引き

第一次(二時間)
 ・自分たちの年齢、性別、関心のある社会問題などについて、興味や関心のある記事を選び、その中で生じた人物像をまとめる。
 ・新聞から興味を持った記事を選び、その中で生じた人物像をまとめる。
 ・意見交換し、自分たちの意見や関心のある記事を選び、その中で生じた人物像をまとめる。

第二次(四時間)
 ・自分たちの年齢、性別、関心のある社会問題などについて、興味や関心のある記事を選び、その中で生じた人物像をまとめる。
 ・新聞から興味を持った記事を選び、その中で生じた人物像をまとめる。
 ・意見交換し、自分たちの意見や関心のある記事を選び、その中で生じた人物像をまとめる。

第三次(三時間)
 ・座談会での仲間の意見を参考に、今後の生き方についてまとめをする。
 ・新聞投稿、ネットへの投稿などを通して、自分の意見を広く発信する。

第四次(三時間)
 ・座談会での仲間の意見を参考に、今後の生き方についてまとめをする。
 ・新聞投稿、ネットへの投稿などを通して、自分の意見を広く発信する。

① 話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。
 ・話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。

② 話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。
 ・話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。

③ 話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。
 ・話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。

④ 話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。
 ・話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。

⑤ 話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。
 ・話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。

⑥ 話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。
 ・話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。

⑦ 話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。
 ・話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。

⑧ 話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。
 ・話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。

⑨ 話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。
 ・話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。

⑩ 話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。
 ・話し手意識
 ・意見交換の場では、相手の意見や意見を尊重し、自分の意見や意見を伝える際には、相手を尊重し、表現を工夫する。

研究協議 II 「学ぶ力を育てるバズ学習」

アイデアの交流で創る図形の学習

東京都杉並区立東田中学校 下都米八穂

助言者

杉江 修治（中京大学）

田中 俊也（関西大学）

望月和三郎（全国バズ学習研究会常任委員）

司会者

鈴木 収（愛知県教育委員会尾張教育事務所）

記録者

内藤 昇（愛知県春日井市立篠木小学校）

アイディアの交流で創る図形の学習

東京都杉並区立東田中学校 数学科教諭 下斗米 八穂

1. はじめに

常々、数学の教科の特性の一つに数えられる『数学的な考え方』を養う授業の展開には、工夫の必要を感じ、向上を目指してきた。

『数学的な考え方』とは、基礎的・基本的な知識や理解の上に、その応用までを身につけることを目標とする『数学的な技術』の育成と共に、育みたい力である。技術を与えられるものとして、受け身となって取り込むのではなく、物事を筋道立てて考え、発見から表現をするまでに、生徒が主体者となって理解を進める過程そのものが、育成につながる。

この過程は、

- ・基本となる知識等（公理や定義）から、次の新たな知識（公式や定理）を導くもの
- ・実験や計算など操作の中で発見されたものを、次の新たな知識（公式や定理）へと導いていくもの

がある。前者が『演繹的な考え方』、後者が『帰納的な考え方』と呼ばれるもので、数学的な考え方の両輪とも言える。

この学習の過程には、主体的に取り組む意志があり、その達成の喜びがあり、次の課題への関心と意欲が生まれる。いずれも、数学の知識と切り離しても、社会へ適応できる可能性をもつ、生徒の将来に生きる力として役立つ重要な力であろう。私は教壇に立つにあたり、生徒の様々な成長の一つとして、この『数学的な考え方』を育むことに携われることが、数学の教育者としての誇りであると思っている。

今回の提案は、経験の少ない私が、せっかくいただいたこの機会に、自分の工夫や考えを皆様にご覧いただき、ご指導をお願いしたいと考えたものである。また、数学科以外の教職に携わる方々にもご理解いただけるよう留意したつもりではあるが、拙い表現にて不可解になっている点には、ご容赦をいただきたい。

2. 主題設定の理由

数学教育では、

演繹的な、	基本的な性質⇒定義⇒仮定⇒証明⇒結論
帰納的な、	具体的な操作⇒発見⇒仮定⇒証明⇒結論

の過程があることは、前項で触れた。

後者は、発見の段階において生徒のアイディアを盛り込むことが、自然な流れの中で可能である。日常生活でも、行動の中から気が付いたことから先を予測し、その予測を裏付けて行動に移すことが多く見られることではないだろうか。この予測がここでは仮定であり、裏付けが証明に近い。同じ事象でも、興味や経験から様々な目の付け所があり、個々により、多種多様なアイディアが生まれる。おはじきや折り紙など、具体的な操作から出発する展開方法は、数学科の教員でなくとも経験が思い浮かべられることと思う。

それに対し、前者は、与えられる定義が出发点になり、ともすると証明技術を覚えることが目的であるかのような印象が残ってしまう。これは、生徒にとって、意欲を失うことにもつながり兼ねない。本来証明とは、論理的な思考力の育成を担っている。自分が納得したことを他の人にも納得してもらえよう、説明ができる表現力も重要である。装飾される言葉を排し、数や文字等（ x や y 、 $+$ 、 $-$ 、 \times 、 \div 等）を用い、記号によって表現される記号論理の分野である。そこには、個々のアイデアが多種であるならば、その道筋も多々あるのだから、知識を用いる表現方法は決して暗記だけではなく、工夫の余地、アイデアを発揮する機会がある。これこそが、個が生きる場面である。

帰納的な発見から、演繹的な展開につなげる、2つを組み合わせた方法も考えられるのだが、今回は敢えて、演繹的な定義から、帰納的な具体的な操作に入る展開を選び、検討をしてみた。それは、次項でも触れるが、この単元では1つの定理に多くの証明が存在する。自分で証明を発見するチャンスがある。これこそが、暗記ではなく、証明のもつ論理的な思考力や表現力の育成を重視する教材としてふさわしい。証明方法を目指す過程で、操作に入り、アイデアを生み、交流させることに、どれだけの可能性があるのかを探りたかったものである。

3. 授業の展開

① 範囲	3学年 数学	単元名	三平方の定理と計量
		節名	三平方の定理
		第1時	三平方の定理 ー証明の1例の提示
		第2時	三平方の定理の証明ー証明に取り組む時間
		第3時	三平方の定理の証明ー証明の紹介
		第4時	三平方の定理の逆
		第5時	三平方の定理の応用ー三角形と比 等
		第6時	三平方の定理の応用ー2点間の距離 等

② 指導のねらい

- ・三平方の定理の理解と、活用の実用性を学ぶ。
- ・納得するための証明の意義、1つの結論に対する証明方法の多様性、証明への関心・意欲、証明技術の習得

③ 具体的な展開と指導の留意点（第1時～第3時）

第1時	三平方の定理	ー証明の1例の提示		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ◦（導入）直角三角形を板書 [5分] ・既習事項や、実用性、歴史的エピソードなどを沿えて、関心を直角三角形に向ける。 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ◦三平方の定理の板書 [10分] ・定理の結論の意味を説明。 ・図形をかいて、直感的にも定理が成り立つかどうかを考えさせる。 ・できるだけ、不思議、何故だろうという疑問につなげる。 </td> </tr> </table>			<ul style="list-style-type: none"> ◦（導入）直角三角形を板書 [5分] ・既習事項や、実用性、歴史的エピソードなどを沿えて、関心を直角三角形に向ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦三平方の定理の板書 [10分] ・定理の結論の意味を説明。 ・図形をかいて、直感的にも定理が成り立つかどうかを考えさせる。 ・できるだけ、不思議、何故だろうという疑問につなげる。
<ul style="list-style-type: none"> ◦（導入）直角三角形を板書 [5分] ・既習事項や、実用性、歴史的エピソードなどを沿えて、関心を直角三角形に向ける。 				
<ul style="list-style-type: none"> ◦三平方の定理の板書 [10分] ・定理の結論の意味を説明。 ・図形をかいて、直感的にも定理が成り立つかどうかを考えさせる。 ・できるだけ、不思議、何故だろうという疑問につなげる。 				

<ul style="list-style-type: none"> ◦ 三平方の定理の証明の紹介 [20分] ・ 数ある証明の中の1つであることを強調しながら、教員による証明。 ・ 証明が可能であること、 証明により納得することができること、 証明が自分の理解につながること、 まだ自分の発想による証明の可能性がること を意識させる。 ・ 一つの証明によって理解することで完結しないように留意する。
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 自作の証明に入る [15分] ・ 方眼のプリントを配布 ・ 机間巡視、質疑応対、理解不足の生徒の個別指導

第2時 三平方の定理の証明－証明に取り組む時間

<ul style="list-style-type: none"> ◦ 前時の続き [40分] ・ ヒントとして、初めて教科書を開くことを許可する。 [開始15分]
<ul style="list-style-type: none"> ◦ グループを作って相談をさせる。 [10分] ・ まとまりかけたアイデアの協議 ・ 進捗によっては、グループを作らなくてもよいものとする。
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 証明できた生徒分のみ、プリントを提出 ・ 証明が途中の生徒は、家庭学習に持ち帰らせる。

第3時 三平方の定理の証明－証明の発表・紹介

<ul style="list-style-type: none"> ◦ グループを作って、検討 [15分] ・ 4人ずつ机を合わせて、相談 ・ 相談の材料として、前時提出のプリントの一部を印刷して配布。 このプリントのアイデアを分析することもよい ・ 自分のアイデアを説明すること、 他者のアイデアを理解すること、 新しいアイデアを作ること
<ul style="list-style-type: none"> ◦ グループの中でまとまったアイデアを発表 [30分] ・ 関連するアイデアを教員から紹介
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 机を黒板の向きに直し、自分の納得したアイデアをまとめる。 [5分] ・ 感想も記入して、提出

④ 生徒の感想より

- みんなよくこんなに三平方の証明が思い浮かぶなと思った。僕は全然思い浮かばなかったの、みんなの作品を参考に頑張りたいと思う。
- (自分が考えた) 2つ目の証明が、この学年で1人しかいないことを聞いた時は、苦勞して考えた甲斐があったと思った。
- かなりめんどくさかったけど、やり甲斐があった。
- 私が考えていたものより、すごくやりやすい証明とかが沢山あり、驚いた。よく思いつくな〜と思った。
- 最初、三平方の定理の証明なんてあるのか…?と思いました。でも、先生の話や、友達の話聞いて、すごく納得することができました。もっと沢山探せばいいなあと思いました。
- ただ、見つけられたことをこなすより、見つからないものを見つけようとするこの方が面白かったです。
- 三平方の定理は、奥が深い!これをやってなぜ三平方の定理が成り立つのかが、よく分かった。
- 三平方の定理一つで、こんなにもたくさんの証明があるなんて、数学は奥が深いな、と思った。
- 色々な証明を見て、この証明が分かりやすく、自分に一番合っていると思いました。今回、自分の頭の固さを実感しました。
- 証明なんて、しても何なんだ、とか思っていたけれど、結構奥が深くて、楽しかった。
- 自分が思いついたもの以外にもたくさん定理があって、おもしろかった。
- 探すのに苦勞しました。だけど、見つかるとなんだこんなところにもあったのか、と納得できるのです。とても楽しかったです。
- 相似でも求められるなんて、驚きました。
- 証明が多くて驚いた。自分で見つけることができなかつたのがちょっと悔しいけれど、いろいろな証明ができてよかった。
- うまくできなかった。難しいヨ。
- 数学の神秘に乾杯!
- 数学、スゲー!!

4. おわりに

教員対生徒の授業形態だけでなく、生徒がもっている情報やアイデアの交流は、授業の厚みを増す。多くの可能性を生徒の手で生みだし、それが、最終的には、結論の裏付けとなって、授業を作る実感へとつながる。今回も、喜びや感動のある、理解の実感が生まれたことが私も嬉しく、生徒のアイデアに感謝したい。今回の課題は、時間の都合により観点を絞ったため、意見の対立や主張の場面が作れなかった。個人の発想の枠を越えて、様々な角度から視点をもつことの可能性をもっと深めたかったという思いが残る。

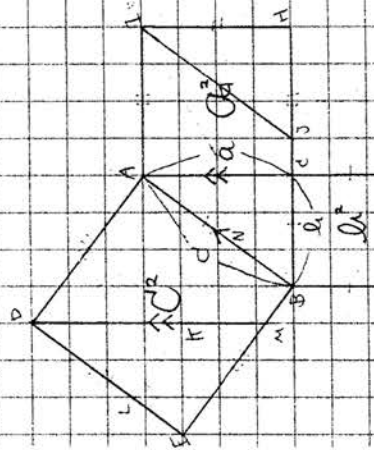
『個』と『集団学習』のバランスを改めて考えることができた。

実施日 2001.10.

数学演習 プリント 三平方の定理②

三平方の定理を探せ!!

3 年 組 番 氏 名



(証明)

$\triangle ADC \sim \triangle ABI$ において
 $\{ \begin{aligned} AC &= AI \text{ (正方形 } ACBI \text{ より)} \textcircled{1} \\ AD &= AB \text{ (正方形 } ABED \text{ より)} \textcircled{2} \\ \angle CAD &= 90^\circ + \angle BAC \\ \angle IAB &= 90^\circ + \angle BAC \text{ より} \end{aligned} \}$
 $\angle CAD = \angle IAB$ ③
 ① ② ③ より、この辺とこの間の角が等しいから
 $\triangle ADC \cong \triangle ABI$ である。

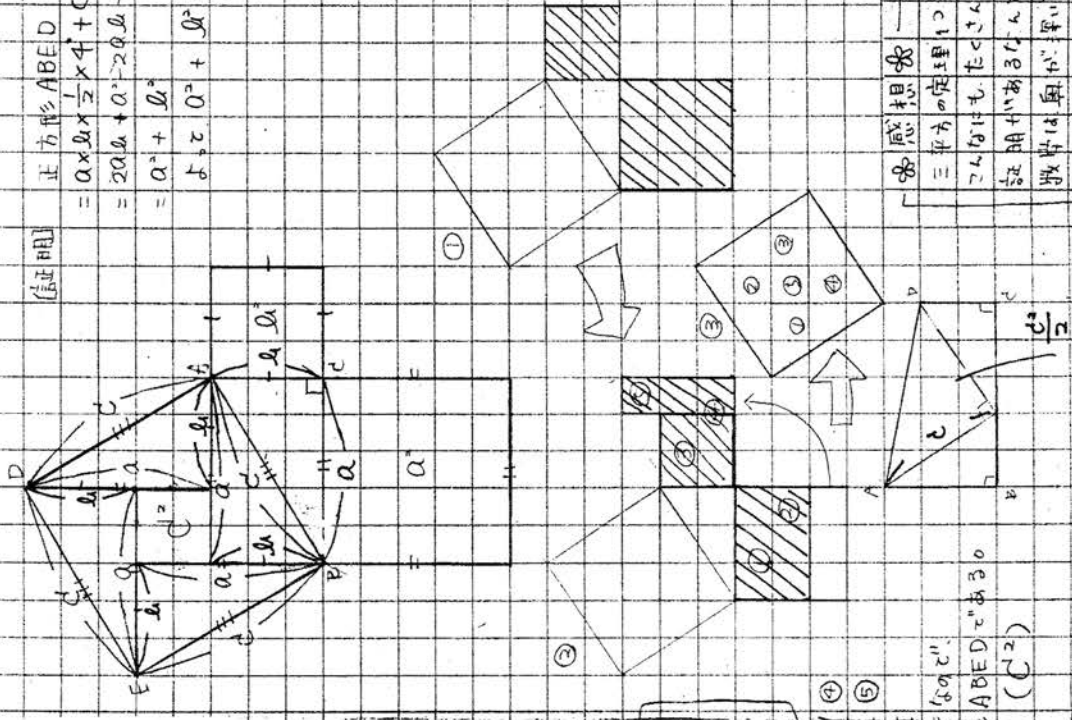
① ます、 AB に平行な IJ 、
 AC に平行な DM をひく。
 ② IB と DC 、
 DE に垂直な KL をひく。

$\triangle DLK \cong \triangle ANE$ において
 $\{ \begin{aligned} \angle PLK &= \angle ANE \textcircled{1} \\ DL &= AN \textcircled{2} \\ \angle LDK &= \angle NAE \textcircled{3} \end{aligned} \}$
 ② ③ より、この辺とこの間の角が等しいから
 $\triangle DLK \cong \triangle ANE$ である。

$\triangle ADC \cong \triangle ABI$ より、(面積が等しいから)
 $\triangle ADC = \triangle ABI$ である。
 よって、平行四辺形 $ADIC =$ 長方形 $ADLN$ ④
 また、平行四辺形 $ABJI =$ 正方形 $ACBI$ ⑤
 ④ ⑤ より、長方形 $ADLN =$ 正方形 $ACBI$
 同様に、長方形 $BEIM =$ 正方形 $BCGE$ である。
 正方形 $ACBI +$ 正方形 $BCGE =$ 正方形 $ABED$ である。
 $(a^2) + (b^2) = (c^2)$

(証明)

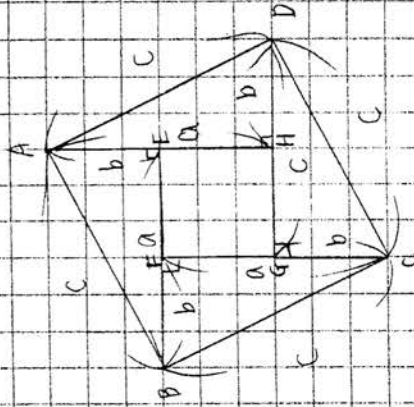
正方形 $ABED$
 $= a \times b \times \frac{1}{2} \times 4 + (a-b)^2$
 $= 2ab + a^2 - 2ab + b^2$
 $= a^2 + b^2$
 よって $a^2 + b^2 = c^2$ である。



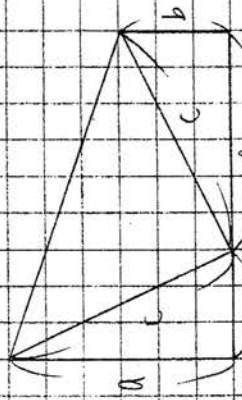
感想
 三平方の定理って、
 こんなにも天才さんの
 証明があるんだ。
 数学は真が面白い
 と思った。

三平方の定理を探せ!!

3年	組	番	氏名
----	---	---	----



正方形 ABCD = c^2
 正方形 EFGH = $(a-b)^2$
 直角三角形 = $\frac{ab}{2}$ (2表示)
 直角三角形 $\times 4$ + 正方形 EFGH = 正方形 ABCD
 $\frac{ab}{2} \times 4 + (a-b)^2 = c^2$
 $2ab + a^2 - 2ab + b^2 = c^2$
 $a^2 + b^2 = c^2$

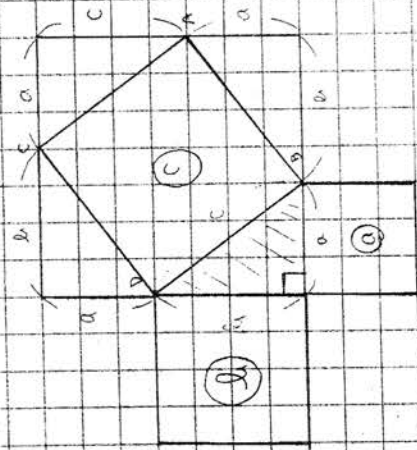


$\frac{(a+b)(a+b)}{2} = \frac{ab}{2} \times 2 + \frac{c^2}{2}$
 $\frac{a^2 + 2ab + b^2}{2} = ab + \frac{c^2}{2}$
 $a^2 + 2ab + b^2 - 2ab = c^2$
 $a^2 + b^2 = c^2$

感想
 三平方の定理は奥が深い
 一女性も、7つまで三平方の定理が
 成り立つのか、よくわかった。

三平方の定理を探せ!!

3年	組	番	氏名
----	---	---	----



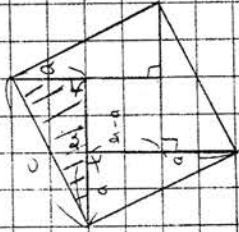
正方形 ABCD

$$= (a+b)^2 - 4 \times \frac{1}{2} a \times b$$

$$= a^2 + 2ab + b^2 - 2ab$$

$$= a^2 + b^2$$

より、 $c^2 = a^2 + b^2$



$$c^2 = \frac{ab}{2} \times 4 + (b-a)^2$$

$$= 2ab + (a^2 - 2ab + b^2)$$

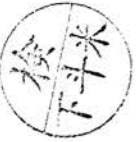
$$= 2ab + a^2 - 2ab + b^2$$

$$= a^2 + b^2$$

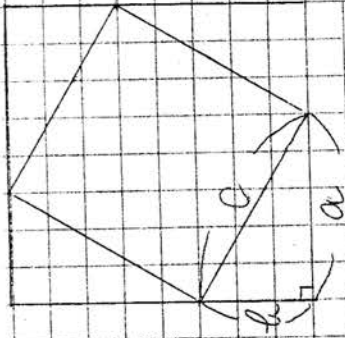
より、 $c^2 = a^2 + b^2$

最初、三平方の定理の証明は、このように...
 と思いました。でも、先生の話を聞いて、まだ納得
 する気がしませんでした。そこで、このように探せば、
 納得できました。

三平方の定理を探せ!!



3 年	組	番	氏 名
--------	---	---	--------

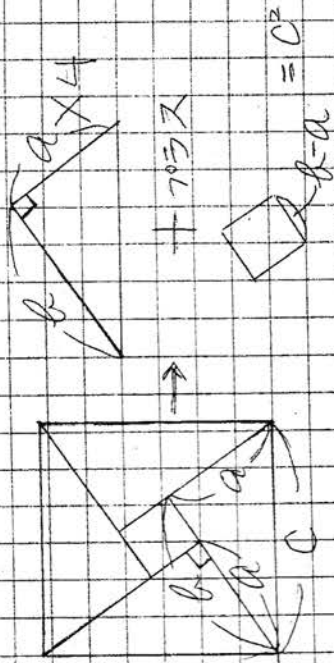


$$\begin{aligned}
 C^2 &= (a+b)^2 - \frac{a^2}{4} \times 4 \\
 &= a^2 + 2ab + b^2 - 2ab + a^2 \\
 &= a^2 + b^2
 \end{aligned}$$

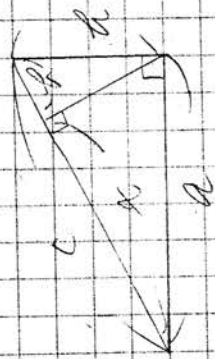


$$\begin{aligned}
 C^2 &= a^2 + b^2 \\
 C^2 &= a^2 + 2xy + y^2 - 2xy - x^2 \\
 &= a^2 + 2xy + y^2 - 2xy - x^2 \\
 &= a^2 + b^2 = C^2 + C^2 \\
 &= C(x+y) = C^2
 \end{aligned}$$

説明を聞いてよくわかる。1:00
自分の力で証明ができた。考え方が面白いので、
これから自分で考えたい。考え方を身につけてみたい。



$$\begin{aligned}
 C^2 &= \frac{ab}{4} \times 4 + (b-a)^2 \\
 &= 2ab + b^2 - 2ab + a^2 \\
 &= a^2 + b^2
 \end{aligned}$$



$$\begin{aligned}
 C^2 &= a^2 + b^2 \\
 &= C(x+y) \\
 &= C^2
 \end{aligned}$$

感想
私が考えたよりも、
証明が簡単だ。あり、
驚いた。驚いた。驚いた。
驚いた。驚いた。驚いた。
驚いた。驚いた。驚いた。
驚いた。驚いた。驚いた。

研究協議 II 「学ぶ力を育てるバズ学習」

「集団の中で自己の力を伸ばす生徒の育成」

ーバズ学習で基礎・基本の確実な定着をー

岐阜県土岐市立泉中学校 研究推進委員会

長瀬教行 古川稔彦 小栗祥吾

助言者

長谷川貢一（東京都杉並区立阿佐ヶ谷中学校）

小島 幸彦（中京短期大学）

関田一彦（創価大学）

司会者

右高 和生（愛知県春日井市立東野小学校）

記録者

水谷 年孝（愛知県春日井市立松原中学校）

集団の中で自己の力を伸ばす生徒の育成 ～バズ学習で基礎・基本の確実な定着を～

岐阜県 土岐市立 泉中学校

バズ推進委員会 長瀬教行 古川稔彦 小栗祥吾

1 はじめに

先生、聞いて～ わたし今、授業を一生懸命やっているんやて、この前なんか数学の先生に質問しちゃった。教えてもらったことを何回もやってみたし、バズで友達と相談するとかして分かってきたらおもしろかった。頑張るとるやら～。

今の自分に満足している人間はいない。この生徒のように、たとえ学力が十分でなくても、失敗しても、本当の自分は違うはずだ、もっとできるようになって認められたいと願っている。しかし、そう願いながらもまた間違いをしたり、失敗したり、挫折したりして自信を失い、本当の自分を探すことを諦め、いずれ拓ける未来の可能性に向けて努力していない生徒もいる。

人は誰でも何かができる。その人でなければできない何かができる。それが個性・能力というものであり、生き方というものであろう。生徒自身の「よし、やろう」というものを見だし、伸ばし確かな自信をもって人生を創造していくことができるよう一人一人に応じて温かく指導・援助し、その意欲とよりよい個性を育てていくことが学校の役割と考える。多様な個性や可能性をもつ生徒達に、全教育活動を通して豊かな人間形成や生涯にわたり創造的に生き、学び続けるための基礎づくりとしての教育、すなわち、豊かな知力や感性を備え、義務教育において仲間と創造して生きていける真の個性・能力を培うにはどうすればよいかを教育課題として、その研究・実践を進めていく必要がある。

今年度は、今まで積み重ねてきた実践を土台にさらに高め、教科を中心にその特性を生かしながら、より確かな学力を一人一人に「バズ学習」を通して身につけさせ、実践をさらに積み上げる時期であると言えよう。

2 主題設定の理由

昨年度は、生徒の学習に対する課題意識の連続をはかる指導計画や、「認知面」と「態度面」を含んだバズテーマの設定を工夫し、教科におけるバズをいかに効果的に行い、必然性のあるバズをどのように生み出すかを中心として研究を進めてきた。こうした私達の教育の営みが効を奏して、生徒の間に協同して活動に取り組む姿が現れ始め、生徒一人一人に教科における基礎・基本を身に付けさせることができるようになってきた。今現在の生徒の姿を見ると、ほぼ形成されつつある集団であると言える。しかし、生徒一人一人の集団に対する自己責任の追究や、互いを伸ばしあえる集団に高まらなかったことにより、本当に個の力を伸ばしきれたかという疑問点、伸ばしきれなかったという課題点が残った。

そこで今年度は、「バズ学習」の基本理念「よりよき個人はよりよき集団を形成し、よりよき集団はよりよき個人を形成する」から、形成されつつある「よりよき集団」から、

「よりよき個」に焦点をあて、教科における基礎・基本を確実に伸ばしていく研究を進めていく必要があると考えた。

本校の生徒の姿を教科や領域での実態から捉えると、以下のようなことが言える。

- 目標や方法が明確であれば主体的に学習に取り組むことができ、基礎・基本を身につけることができる。
- 温かい雰囲気の中で、仲間と共に学習し、自分の考えや力を発揮できる生徒が多い
- △進んで課題を見つけたり、自分で解決したりしていこうとする力が弱く、集団の中での個の役割や責任を果たしきれていない。
- △互いに信頼し合い、高め合ったり深め合ったりしようとする集団にまで高まっていない。

つまり、落ち着いた学習集団において、自分を表現することを不安に感じず、自らの力を発揮する中で、基本的な学習習慣を身に付けることができ、着実に学ぼうとする姿勢が身に付いてきていると言える。

しかしながら、集団に依存することで個の役割や責任が十分果たせず「より高いもの」「より価値のあるもの」を求めて切磋琢磨し合い、互いに高め合う厳しさが十分には育っていないという実態である。

そこで、今年度、本校の教科学習における願う姿を、以下のように設定した。

- ◎よりよく生きたいという、自分自身の願い・考えを強くもち、仲間の考えを取り入れていくことで、主体的に学び、教科の本質に迫っていく姿
- ◎互いの成長及び学習集団の成長を願って、鍛え合って高まろうとする姿

3 研究主題と研究内容

〈研究主題〉

集団の中で自己の力を伸ばす生徒の育成
～バズ学習で基礎・基本の確実な定着を～

〈研究仮説〉

教科の特性を生かし、生徒一人一人が自己の力を発揮できるようなバズ学習を、意図的・計画的に取り入れ成長を評価すれば、生徒一人一人に基礎・基本が確実に定着する。

(1) 指導計画の活用と充実

生徒の追究意識が継続していく指導計画を工夫し、教科の基礎・基本を明確にする。そして、ねらいに即したバズの方法や場を設定する。

○ 学習意欲の連続

単元に入るときに生徒の意識や単元を締めくくるときに意識を明確につかみ、生徒の学習に向かう追究意識がとぎれず連続するよう工夫する。

○ 基礎・基本の明確化

移行期間中の学習内容を考慮し、各教科ごとに単元の目標分析を行い、生徒につけるべき「基礎・基本」となる力を明確にし、生徒一人一人に力をつけさせる指導計画を立案する。

○ バズの役割

効果的なバズを意図的に位置づける。教科の特性を生かしながら、その教科や単元のねらいに即した、バズを導入していく。

(2) 指導方法の工夫と改善

生徒が学習意欲や追究意欲が持てる学習課題を設定し、必然性があるバズテーマを工夫していく。さらに、ねらいに応じたバズの学習形態についても究明する。

○ 意欲を持たせる学習課題

生徒が興味や関心を持って学習に向かえるような学習課題を設定する。

○ 必然性のあるバズ

課題から生まれる素朴な疑問や呟きを大切に、目的や活動内容が明確であり、教師側のねらいに沿った必然性があるバズテーマを設定する。

○ 有効なバズ

ねらいがはっきりしないバズをただ行うのではなく、生徒により確かな学力が身につくために、展開の中でどの位置にどのような種類のバズを取り入れて、教師はどのように支援をしていくかを究明する。なお、バズが生徒の力で進めていけるよう、話し合いを進めるリーダーや、話し合い活動ができる生徒を育成する。

(3) 指導と評価の一体化

バズにおける自己の責任と学習の達成を評価し、仲間と共に相互に評価し合える力を身につけさせる。さらに、教師側が、学習の達成度や過程を評価し生徒一人一人の変容を正しく評価する在り方を究明する。

○ 自己評価

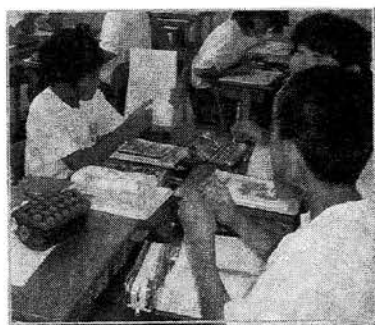
自分の学習を振り返り、次の課題を見つけることができる生徒を育てる自己評価の在り方を明らかにする。

○ 相互評価

バズを行った場合、仲間とのかかわりから相互で学習を振り返り、自分や仲間の成長を、互いに認め励まし合うことで次への意欲につなげ、自分をさらに伸ばすことにつながる評価を明らかにする。

○ 教師の評価

教師が生徒の活動を認め励ます。学習の成果やバズでの姿や様子を評価し、価値づけていく。



4 実践

(1) 数学科における教科指導の実践

1年生 単元名「正の数・負の数」(12時間目)より

数学科では、研究テーマ「数学的な見方・考え方を大切にして取り組む生徒の育成」に向けて、実践をしてきた。

本時は、加法の交換法則や結合法則、かっこのない式の形の直すなど、計算方法について工夫をさせたいと考えた。また、バズを通して計算の工夫についての理解を深めるとともに、数学の楽しさを味わわせたいと願った。

問題「次の計算をしよう。7 - 9 + 8」により、計算の仕方について、①左から順に計算するのが基本であること②正の数と負の数の組を作るなど順序を工夫すると計算が楽になること③計算方法はいくつかあることを確認できた。課題「次の計算方法を考えよう。1 - 4 - (-9) + (-5)」では、左から順に計算をする生徒がまだ多かったが、計算の順序を変えて計算をする生徒や複数の計算の方法を考える生徒がでてきた。そこで、バズテーマ「計算の仕方について交流し、3つ以上にしよう。」とし、探究バズを仕組んだ。すると①左から順に計算する。②かっこのない式に直す。③正の数・負の数の組や相殺する数の組を作って計算する。④かっこをつけて全部たし算の形にして計算するなど、計算しやすくしたいという思いから、計算の工夫が増え理解も深まった。このようにバズ学習により、互いの考えを取り入れながら、数学的な見方・考え方を大切にして取り組めた。

(2) 美術科における教科指導の実践

1年生 題材名「絵画を味わう」(鑑賞活動)より

美術科では、中学校学習指導要領の改定において、よりいっそうの鑑賞活動が求められるようになった。そこで、鑑賞単独の授業はもちろん表現活動の中に「バズ学習」を活用し、お互いの表現価値観の認め合い、他者への理解やコミュニケーションの育成を大切にする鑑賞を位置づけた活動を行っている。

今回、実践した1年生の授業では、鑑賞する作品として、グスタフ・クリムトの「人生は戦いなり(黄金の騎士)」を設定した。この時期は発達段階において、写実的な表現に感動を受け傾倒しやすい。そこで、この作品について鑑賞することで、平坦な表現の中の良さや美しさにも目を向けさせ、表現の多様性についての理解をねらいとした。

表現活動には多種多様なものがある。学習課題を「作者が作品にこめた気持ちを感じ取り、表現の美しさやよさを味わおう」として、バズテーマに「作者がどの部分にどのような意味をこめたのか考えて、班で一つは見つけて発表できるようにまとめよう。」と探究バズを仕組んだところ、そうした多様性から得た個々のものの見方や考え方をバズを通して交流することで、様々な見方や考え方を見出すことができた。作品を通してお互いのものの見方や考え方を知り、さらに作品に対する見方や考え方が広がることに気づく生徒も多かった。そこには、お互いのよさの認め合い、鑑賞の楽しさを味わうことや、興味・関心を抱いて様々な美術作品を鑑賞する態度や、自分自身の表現活動につなげようとする生徒の姿があった。

5 成果と課題

<成果>

1 研究主題「集団の中で自己の力を伸ばす生徒の育成」—バズ学習で基礎・基本の確実な定着を—
○お互いの授業を交流し、バズ学習をどのように進めていけば良いのかを考え合うことができている。つまり、研究主題にそって、生徒の力を高める研究を進めることができつつある。



2 研究内容から

(1)研究内容1 「指導計画の活用と充実」

○バズ学習を位置付けた指導過程を意識し、その特性を考慮した指導計画を立案することができている。このことにより、生徒の学習に対する課題意識の連続が図られ、より意欲的な学習ができるようになった。

(2)研究内容2 「指導方法の工夫と改善」

○教師が、バズ学習を行うねらいを明確に持ち、学習意欲を喚起する学習課題の設定や「認知面」「態度面」を高めるためのバズテーマのあり方を明らかにすることができた。また、バズ学習中の教師の関わり方についても明らかになりつつある。このことにより、バズ学習を通じて、自らの意見や考えを広げたり深めたりすることができる生徒が増えてきた。

(3)研究内容3 「指導と評価の一体化」

○バズ学習を成立させるためのリーダー指導や話し合い活動を繰り返し指導することによって、自分の考えを意欲的に仲間に伝え、仲間の意見を積極的に取り入れる生徒の姿が多く見られるようになってきた。

<課題>

1 研究主題「集団の中で自己の力を伸ばす生徒の育成」—バズ学習で基礎・基本の確実な定着を—

▲生徒自らが、お互いに認め合い高めあうことを通して、自己の成長を実感し、自己の持つ力を培っていくことが、より「集団の中で自己の力を伸ばす」ことにつながっていく。

2 研究内容から

(1)研究内容1 「指導計画の活用と充実」

▲主体的に学習に取り組むために、バズ学習を効果的に取り入れ、生徒がより学習意欲を持つことができるような指導計画を、各教科で改善していく必要がある。

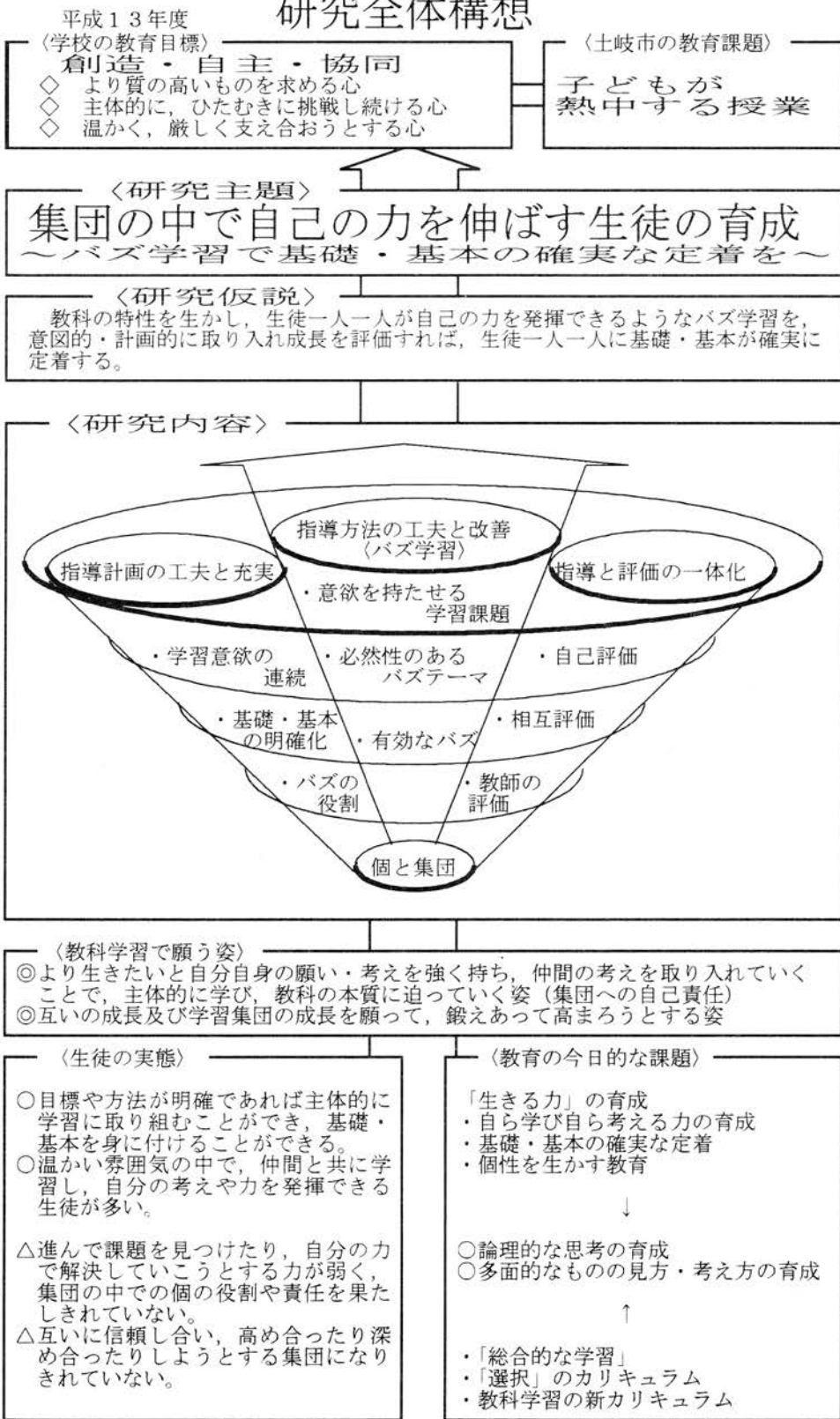
(2)研究内容2 「指導方法の工夫と改善」

▲バズ学習中の話し合いを含め、生徒に「協同」における自己責任を認識させる指導が必要である。

(3)研究内容3 「指導と評価の一体化」

▲バズ学習を通じて高めあったことをさらに自覚できるような、自己評価・相互評価を工夫していくことによって、生徒の学習意欲を継続させていく必要がある。

研究全体構想



講演

「総合的な学習の時間」の導入と教師の役割

南山大学教授 石田裕久先生

< 講 演 >

「総合的な学習の時間」の導入と教師の役割

南山大学教授 石田 裕久 先生

1 総合学習“登場”の経緯

2 教科指導と総合学習

3 なぜ総合学習が求められるのか？

4 バズ学習と総合学習

*バズ学習の参考図書

- ①有元・加藤・望月・杉江 1997 『学校は変わるか』
日本教育総合研究所
- ②市川千秋 1987 『自由バズを取り入れた授業の進め方』
明治図書
- ③ジョンソン他（杉江・石田・伊藤・伊藤訳）1998
『学習の輪：アメリカの協同学習入門』 二瓶社
- ④丸山正克 1996 『仲間との絆を育てるバズ学習のすすめ』
（株）みらい
- ⑤塩田芳久 1989 『授業活性化の「バズ学習」入門』
明治図書
- ⑥塩田芳久 2000 『バズ学習をめざす教育：塩田芳久講演集』
揺籃社
- ⑦杉江修治 1999 『バズ学習の研究』
風間書房
- ⑧シャラン・シャラン（石田・杉江・伊藤・伊藤訳）2001
「協同」による総合学習の設計：グループプロジェクト入門 北大路書房

第33回全国バス学習研究大会役員一覧

○第33回全国バス学習研究大会

会 長 林 典 照 (名古屋工業高等学校長)
実行委員長 堀 場 正 美 (愛知県春日井市立不二小学校長)
運 営 委 員 杉 江 修 治 (中京大学教授・全国バス学習研究会常任委員)
石 田 裕 久 (南山大学教授・全国バス学習研究会常任委員)
望 月 和 三 郎 (東京都バス学習研究会事務局長)
伊 藤 正 義 (名古屋工業高等学校教頭)
尾 鍋 和 彦 (名古屋工業高等学校教務部長)
長 縄 秀 孝 (愛知県春日井市立柏原中学校長)
田 川 正 樹 (愛知県春日井市立中央台小学校教頭)

○全国バス学習研究会

会 長 堀 場 正 美 (愛知県春日井市立不二小学校長)
研究者代表 梶 田 正 巳 (名古屋大学大学院発達科学研究科教授)
事 務 局 長 縄 秀 孝 (愛知県春日井市立柏原中学校長)
田 川 正 樹 (愛知県春日井市立中央台小学校教頭)

○研究協議会の助言者、司会者、記録者は、各レポートの扉に記載

第33回全国バズ学習研究大会要項
新しい教育の目指す方向とバズ学習
－新学習指導要領の主体的対応－

編者 第33回全国バズ学習研究大会準備委員会

発行日 2001年11月10日

発行

印刷所

